

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530769

研究課題名(和文) 地域包括ケアにおけるストレングスを促進するソーシャルワークの総合的研究

研究課題名(英文) Social Work to Encourage Strengths in Comprehensive Community Care

研究代表者

山井 理恵 (Rie, YAMANOI)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：40320824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ストレングス・パースペクティブから、地域包括ケアにおける利用者と地域事業所のストレングスを明らかにすることを目的としている。

地域への愛着、高齢者や障がい者への気づき、イメージアップ、自治体や地域団体の協力が地域事業所の活動への参加を促していた。利用者は有益な情報やロールモデルと出会うことでストレングスを強めていた。ソーシャルワーカーらは、情報提供、活動の称賛、地域のキーパーソンとの関係構築により、彼らの地域活動への参加を促していた。地域包括ケアプログラムは、ソーシャルワーク機関やソーシャルワーカーの業務を拡大した一方で、ソーシャルキャピタルの弱体化が地域との協働を困難にしていた。

研究成果の概要(英文)：This study uses the strengths perspective to clarify the strengths and obstacles in encouraging users and social businesses in comprehensive community care. Findings indicate that community businesses joined their community project because of their attachment to their district, awareness of their elderly and handicapped customers, desire to improve their image, and cooperation from local organizations. Additionally, users are often encouraged by giving helpful information and encountering role model. Social workers give useful information, and praise their contributions to users and community resources. Senior social workers intend to build strong relationship with key person in the district. Comprehensive community care programs are crucial opportunities for social workers to extend their works aggressively. However, weaken social capitals might cause serious difficulties to collaborate community resources in comprehensive community care.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク 高齢者ケア 地域包括ケア ストレングス 社会資源 ジェネラリスト・ソーシャル・ワーク 社会福祉士

1. 研究開始当初の背景

(1)近年、地域包括ケアに対する注目が高まっている。しかしながら、専門職による実践活動のみならず、利用者自身や地域の持つ潜在的な力であるストレンクス(強み)に注目し、それをいかに地域包括ケアにおいて促進するかについては十分な研究がなされてこなかった。

(2)欧米において実施されている地域でのセルフ・マネジメントが利用者、特に高齢者に与える影響やその支援のためのソーシャルワークについても、十分明らかにされてこなかった。

2. 研究の目的

(1)本研究においては、ジェネラリスト・ソーシャルワークの立場から、地域包括ケアにおいて、利用者のみならず広く地域の持つストレンクスを促進するための、ソーシャルワークについて明らかにすることを目的とした。

(2)あわせて、国内外の地域包括ケアにおいて利用者や地域のストレンクスを促すためのプログラムの実施状況と課題について解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)地域事業所の見守り推進の状況を明らかにするために、平成 23-24 年度にかけて、関東地方 A 市の地域包括支援センター 9 か所の社会福祉士やケアマネジャー、看護師等 20 名、及び自治体の担当職員や準備・運営委員会委員長(福祉系の大学教員)に対して、見守り推進事業の概要、参加事業所の実態、本事業への参加を促すための支援についてのヒアリングを実施した。あわせて、本事業の準備委員会や運営委員会の議事録、地域事業所リストなどの資料を分析した。

(2)専門職や利用者自身の視点から、利用者のストレンクスを促進するための支援について調査するために、東北地方 B 市及び関東地方 A 市の障がい者施設や子育て支援施設の利用者や職員に、利用者や地域のストレンクス、およびそれらを促進したソーシャルワークの支援過程について面接調査を実施した。

(3)イギリス等における personalization の資料を概観し、ソーシャルワークの視点から、高齢者にとっての personalization の意義と限界について検討した。

(4)以上の研究成果を、日本社会福祉学会、日本福祉社会学会、Social Policy Association UK 2013 等において報告し、フィードバックを得た。

4. 研究成果

(1)地域包括支援センター職員や自治体職員に対する面接調査、資料の分析から、地域への愛着や高齢顧客への気づき、自治体のバックアップ、地域団体の協力が、地域における商店や美容院などの地域事業所の見守り活動への参加を促していること、社会福祉士らが必要な情報提供や地域団体との協力体制を推進することが、彼らの見守りを促進・継続させることが明らかになった。

一方、利用者(顧客)に対する権利擁護をめぐって、社会福祉士と地域事業所間の葛藤が生じていた。さらに、顧客の個人情報漏えいへの危惧、大規模店進出に伴う地域事業所の減少、地域事業所の過重労働が地域事業所の見守りの推進を困難にしていることが課題となっていた。

(2)専門職や当事者に対する面接調査から、利用者の意思の尊重、必要な情報の提供、地域で生活するロールモデルとの出会い、就職が利用者の問題解決や社会参加へのストレ

ングスを強化していた。

反面、福祉施設や医療施設における当事者の意思を確認しないでの専門職や家族だけの方針決定、メディアに登場する当事者を引き合いに出した励ましが、ストレングスを損なったことが明らかになった。

(3)国内外の地域包括ケアにおけるソーシャルワークと比較することにより、我が国においては、イギリスの direct payment や individual budget に代表される personalization のシステムがないために、当事者、特に高齢者が自らの生活をマネジメントする機会が限られていることが解明された。

(4)以上の研究成果を内外の学会で報告することにより、我が国の地域包括ケアにおいては、地域の多様な潜在的資源がストレングスとして活用される可能性があることが判明した。その潜在的な資源を利用者のストレングスと組み合わせることで、新たなソーシャルワークの可能性が浮き彫りになった。

反面、持続可能性という観点からは、地域事業所や地域住民に対する見守りや地域包括ケアの参加に対する報酬の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

Rie YAMANOI, Key Considerations in Care Managers' Selections of Service Providers, Proceedings of 21st Asia-Pacific Social Work Conference 2010, 査読有, 2011。

石田健太郎、ケアワーカーという職業のあり方について、『福祉のひろば』査読無、500号、2011、pp.70-1。

石田健太郎、ホームヘルパーの生活援助行為は高齢者にとってなぜ重要か、『ゆたかな暮らし』査読無、355号、2011、pp33-37。

大坂純、震災ノート NPO 法人雲母(きらら)のとりくみ、『コミュニティソーシャルワーク』査読無、8号、2011、pp.83-8。

妹尾和美、精神障害者の地域移行支援の課題について、『福祉のひろば』査読無、505号、2011年、pp.70-1。

大坂純、最前線！高次機能障害者の就労体験～愛南町での就労体験～ 特定非営利法人 雲母倶楽部(宮城県)、『Juntos (ふんとす)』査読無、56、2012、pp.12-3。

山井理恵、ケアマネジャーがサービス供給主体をアセスメントする際のキー要因 ケアマネジャーの評価からの分析、『明星大学人文学部人間社会学科・福祉実践学科紀要』査読無、33(1)、2013、pp.1-10。

山井理恵、イギリスにおける高齢者の personalization ソーシャルワークの視点からの検討、『明星大学研究紀要 人文学部』査読有、49(1)、2013、pp.51-61。

https://meisei.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=28&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=67

石田健太郎、子どものケアにおける「思い」の社会的な位置づけ、上智大学『社会学論集』査読有、37(1)、2013、pp.35-51。

妹尾和美、精神障害者ホームヘルプサービス研究の現状について、『明星大学人文学部人間社会学科・福祉実践学科社会学研究紀要』査読無、33(1)、2013、pp.47-56。

山井理恵・石田健太郎、我が国における社会的孤立予防施策 アクターとその役割期待の検討、明星大学人文学部『明星大学研究紀要 人文学部』査読有、50(1)、2014、pp. 45-60。

Rie YAMANOI, Kentaro ISHIDA, Masayuki ASAI, Kazumi SENOO, Strengths and Obstacles Related to Mobilizing Community Businesses: Qualitative Analysis of Interviews with Employees of Comprehensive Community Support Centers, Japanese Journal of Social Welfare, (日本社会福祉学会『社会福祉学 英語版』) 査読有、2014、No.51(5):41-53.
<http://www.jssw.jp/journal/e-index.html>

〔学会発表〕(計8件)

Rie YAMANOI, Key Considerations in Care Managers' Selections of Service Providers, 21st Asia-Pacific Social Work Conference, Waseda University, Tokyo, Japan, 2011, 07.15-18. (7/16 報告)

石田健太郎、求められる専門性の変容—介護職のキャリア形成の視点から、日本保健医療社会学会看護・ケア研究部会主催、福祉社会学会共催(第32回研究会)公開企画「資格と専門性を問いなおす—医療・福祉の再編に向けて」2011.9.19、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、東京。

山井理恵、地域包括支援センターによる地域の支援体制構築 A市見守り支援ネッ

トワークにおける協力事業所の開発と促進・障害要因、日本地域福祉学会第26回大会、口頭発表、2012年6月10日、熊本学園大学、熊本県熊本市

Rie YAMANOI, Masayuki ASAI, Kentaro ISHIDA, Kazumi SENOO, An attempt to redevelop untapped potential community resources for safeguarding older people, 2012 Joint World Conference on Social Work and Social Development: Action and Impact (Poster presentation), 9th July 2012, Stockholmässen, Stockholm, Sweden

山井理恵、浅井正行、石田健太郎、社会福祉士が認識する利用者のストレングスと支援方法、地域包括支援センター調査からの分析、日本社会福祉学会第60回秋季大会、口頭発表、2012年10月20日、関西学院大学上野原キャンパス、兵庫県西宮市

石田健太郎、山井理恵、東京都大都市圏郊外における地域支援ネットワークの展開過程と資源開拓、日本福祉社会学会第11回大会、口頭発表、2013年6月30日、立命館大学、京都府京都市

Rie YAMANOI, Kentaro ISHIDA, Masayuki ASAI, Kazumi SENOO, Collaboration for preventing social isolation in Japan, UK Social Policy Association Conference, 9th July 2013, University of Sheffield, Sheffield, UK.

山井理恵、石田健太郎、浅井正行、妹尾和美、地域資源開拓におけるストレングスと障壁 - 地域包括支援センター職員へのインタビューデータの質的分析、日本社会福祉学会第61回秋季大会、口頭発表、2013年9月22日、北星学園大学、北海道札幌市。

〔図書〕(計 6件)

石田健太郎、介護労働、藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂:東京、2011、総ページ数 288 ページ、分担執筆分 p.109。

大坂純、支援を必要とする被災者の理解とサポーターが行う具体的支援」東北関東大震災・共同支援ネットワーク被災者支援ワークブック編集委員会編『東日本大震災・被災者支援のためのサポーターワークブック【初任者用演習用テキスト】』(第2版)、2012、筒井書房:東京、総ページ数 101 ページ、分担執筆分 pp.21-28 .

妹尾和美、居住の場の確保と精神保健福祉士の役割、日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座 7 精神障害者の生活支援システム』中央法規出版:東京、2012、総ページ数 277 ページ、分担執筆分 pp.120-130。

妹尾和美、共同生活援助(グループホーム)・共同生活介護(ケアホーム)、日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉援助実習指導・実習』、中央法規出版:東京、2012、総ページ数 235 ページ、分担執筆分 pp.183-187。

志水田鶴子、事例検討の方法、大坂純・志水田鶴子・藤井博志他編著、東日本大震災・被災者支援のためのサポーターワークブック(災害公営住宅等への転居期編) 全国コミュニティライフサポートセンター:東京、2014、総ページ数 69 ページ、分担執筆分 pp.58-59。

志水田鶴子、より良い支援のためのキーワード1 - 5ほか、大坂純、志水田鶴子、浜上

章編著、地域生活支援「困った」ときのQ&A 全国コミュニティライフサポートセンター:東京、2014年、総ページ数 72 ページ、分担執筆分 pp.6, pp. 8-12 ,p27 ,p.30,p.33, p.37 p.39 ,p.43, p.48, p.55, o.59, p.64, p.66, p.69。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

山井理恵(YAMANOI,Rie)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号:40320824

(2)研究分担者

大坂純(Osaka,Jun)

仙台白百合女子大学・人間学部:教授

研究者番号： 80347921

志水田鶴子 (SHIMIZU, Tatsuko)

仙台白百合女子大学・人間学部:教授

研究者番号： 70326750

石田健太郎 (ISHIDA, Kentaro)

明星大学・教育学部・助教

研究者番号： 10610339

浅井正行 (ASAI, Masayuki)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号： 50415501

(3)連携研究者

妹尾和美 (SEN00, Kazumi)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号： 90587354